

令和二年度 後期日程 公共政策学部

小論文問題

〔注意〕

- 1 机上に受験票を提示しておくこと。
- 2 監督者の指示があるまで、この冊子を開いてはいけない。
- 3 解答用紙すべてに、受験番号・氏名を記入すること。
- 4 この冊子は、問題用紙（九頁）・解答用紙（三枚）からなっている。
- 5 落丁・乱丁、または印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて申し出ること。
- 6 解答は、解答用紙の指定された箇所に、縦書きで記入すること。
- 7 解答作成の際、句読点・カッコは、字数に含めること。
- 8 試験開始後六〇分を経過しないと、退室できない。また、試験終了前一〇分間は退室できない。退室するときは、手をあげて申し出た上で、試験監督者の指示に従うこと。なお、解答用紙は机上に置き、その上に試験監督者が配付する用紙を重ね、問題冊子は持ち帰ること。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(出典) 河合雅司『未来の年表』二〇一七年、講談社現代新書。ただし、出題の都合上、一部改変している。

※地域包括ケアシステム：高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、それぞれの地域の実情に合った「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」を切れ目なく一体的に提供することを目指そうとする体制のこと。

問一 傍線部（「家族」消滅の危機）とはどのような状況を指すのか、説明しなさい。（三〇〇字以内）

〔五〇点〕

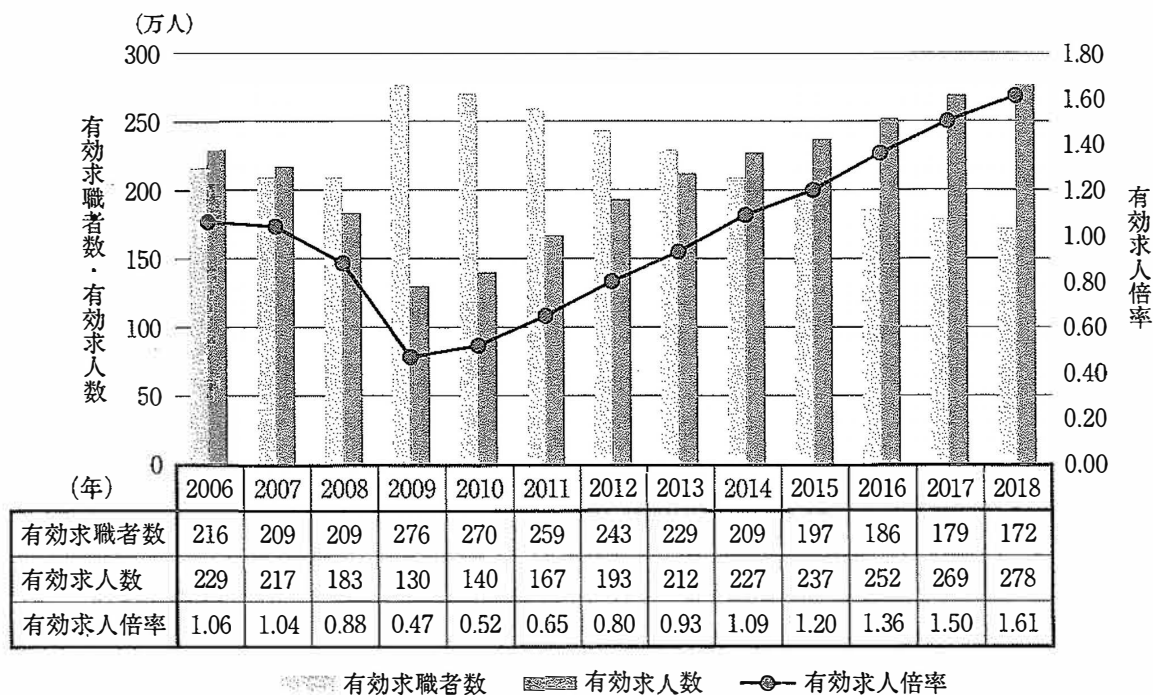
問二 本文から読み取れるひとり暮らしの高齢者をめぐる課題への対策として、必要なことは何か、あなたの考えを述べなさい。（五〇〇字以内）

〔一〇〇点〕

二 次の図表から読み取れる、日本における労働力人口の現状と今後の課題について述べなさい。  
(七〇〇字以内)

〔一三〇点〕

図1 有効求人倍率、有効求人数、有効求職者数の推移



(注) 有効求人倍率 = 有効求人数 / 有効求職者数

(出典) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(職業安定業務統計)の「新規学卒者を除きパートタイムを含む」(【実数】、年平均)より作成。

表1 人口の将来予測

(単位: 千人)

年	0~14歳	15~64歳	65歳以上	総計
2015	15,945	77,282	33,868	127,095
2020	15,075	74,058	36,192	125,325
2025	14,073	71,701	36,771	122,544
2030	13,212	68,754	37,160	119,125
2035	12,457	64,942	37,817	115,216
2040	11,936	59,777	39,206	110,919
2045	11,384	55,845	39,192	106,421
2050	10,767	52,750	38,406	101,923
2055	10,123	50,276	37,042	97,441
2060	9,508	47,928	35,403	92,840
2065	8,975	45,291	33,810	88,077
増減率	-43.7	-41.4	-0.2	-30.7

(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年度推計)」【出生中位(死亡中位)推計】より作成。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権の関係で不掲載)



(著作権の関係で不掲載)

(出典) 堀内進之介『人工知能時代を〈善く生きる〉技術』二〇一八年、集英社新書。ただし、出題の都合上、一部改変している。

問 筆者の主張を踏まえたとうえで、「あたらしい技術」と社会の関係について、あなたの意見を述べなさい。  
(八〇〇字以内)

〔二二〇点〕